

高齢者の万引増加

「支払いがもったいない」 「何となく」「生活苦しい」

鹿児島県内で65歳以上の高齢者による犯罪が急増している。刑法犯認知件数は2001年から減少傾向にあるが、摘発された高齢者数は10年前の2倍を超え、特に万引でその傾向が顕著に現れている。規範意識の低下も目立つが、孤独感が背景にあると指摘する関係者もいる。

鹿児島県警

摘発割合10年で3倍

背景に孤独感や不安感？

県警生活安全企画課によると、02年に県警が逮捕や書類送検した検挙者3765人のうち、高齢者は255人(6・8%)。11年は2937人中559人(19%)で、

今年9月末時点で、2183人中461人(21・1%)。高齢者の割合はここ10年で約3倍に急増している。

中でも、窃盗や万引の上り、未成年者の20%を占める高齢者の上回る。県警が万引で摘発された高齢者に動機を問うたところ、「金を使いたい」という声が多く、今年9月末時点で窃盗犯で26・1%。万引に限ると35%にも上る。万引に限ると35%にも上る。万引に限ると35%にも上る。

③生活が苦しい順で多いという。

鹿児島市内の大手スーパーの副店長は「狙われるのは食料品や日用品が」。小売りの業界団体などでつくるNPO法人「全国万引犯罪防止機構(東京)の福井昂事務局長は「万引容疑者の高齢者は、

しているのに」と憤る。売り場の死角をなくし、客への声掛けを励行。万引を見つけた場合は、説諭して帰すのではなく、必ず県警に通報する。と指摘。孤独感や不安感から犯罪に走るとみる。「高齢者を社会で孤立させず、ボランティアで店舗の巡回をしてもらうなど、居場所作りが必要」と提案する。

ほかにも、店舗の大型化で従業員の目が届きにくくなったことや、マイバッグの導入でレジを通した商品がどつか見分けにくくなっていることも、万引を誘発する要因として挙げられる。

県警は、高齢者宅の巡回や、高齢者対象の集会などでの啓発・広報に取り組み抑止を図る。県警生活安全企画課は「万引は犯罪だという意識を徹底させたい」としている。

(片岡寛)